

2010/08/14

常盤塾

上原 渉

井上ウィマラ「移行対象ー内と外をつなぐモノ」

#### 著者について

高野山大学スピリチュアルケア学科准教授.

上座部仏教の瞑想法（ヴィパッサナー瞑想）を日本とビルマで学ぶ。カナダやアメリカ、イギリスで心理療法を学ぶ.

（参考：著者ウェブサイト <http://www.geocities.co.jp/Beautycare/8365/>）

#### 言葉の確認

移行対象とは、ウィニコットが提唱した概念である.

人形・ぬいぐるみ・毛布など、客観的に見るとただの物であるけれども、発達のある時期(乳幼児期)の子供にとってはかけがえのない愛着の対象となる。それを移行対象という.

ウィニコットによると、乳児期の子供は、自分の希望通りに外部の世界が構築されているという、主観的な内的世界（錯覚）に生きている。しかし成長につれて、外部の現実世界へと移行していく(脱錯覚)。移行対象は、その移行期に孤独や不安を和らげ、橋渡しの役目をする。精神的に健全な発達を遂げると、移行対象は芸術や宗教、科学的研究などといった創造性や集中体験の中に保持される.

（参考：心理用語集）

#### 要約

移行対象は乳幼児期のみならず、自分の内と外、自己と他者、自我意識と純粹体験などといった、対極にあるものを繋ぐ役割を果たしている。またそれは対極が存在することによって発生する苦しみを軽減する。具体的には、宗教的アイコンや歌、呼吸も移行対象と見なすことができる.

#### 内容

##### 1. 宗教的アイコンは移行対象である

自分と神聖なものとの間に、アイコンがある。アイコン＝神聖なものではなく、自己と神聖なものを繋ぐ、そしてその中間領域に意識を向けさせるモノ（媒介）なのである.

## 2. 歌は移行対象である

人は、同じ出来事（主に受け容れがたい出来事）を何度も思いだし、語り直すことで、それを受容することができる。内（心）と外（事実）の中間領域として歌詞とメロディーがあり、それに意識を向け、反芻することによって外（事実）を内面化していく。

## 3. 呼吸は移行対象である

・瞑想：心を落ち着ける集中力と物事の本質を洞察する智慧を養成するトレーニング。特に、後者のトレーニングは「気づき」が必要であり、「気づき」を確立するためには、以下の3つの視点から対象をとらえる必要がある。

- ①自分の内にある対象
- ②自分の外（他者）にある対象
- ③自他の間や場にある対象

・純粹体験（意識の微分体験）：自分の行動を常に自覚しようとするとき、思い出すまでの時間をゼロに近づけていくと、五感で感じていることだけが意識されるようになること。体験を観察しようとする自我意識の対極。

呼吸が移行対象であるのは、自我意識と純粹体験との間の往復を行っているときの「意識の乗り物」になるから。

## 考察

宗教と切り離して考えてみたい。Csikszentmihalyi and Rochberg-Halton,の *The Meaning of Things*, 1981 を参考にした。（市川孝一・川浦康至訳『モノの意味—大切な物の心理学』誠信書房, 2009）

問い：普通のモノが移行対象となるには、何が必要であろうか。

答え：精神的エネルギー（意識，注意）の投入。

乳幼児にとって、お気に入りの毛布は、別の毛布で代替できない。よだれや涙がしみこんでいるかもしれない、「その毛布」でなくてはならない。

大人になっても、大切なモノというのはそうである。新品のそれが大切なのではなく、様々な経験をともにしたモノが重要なのである。

つまり、個人がモノに対して、時間や労力、エネルギーを投入したかどうかは鍵となる。

問い：精神的エネルギーが投入されたモノは、どのように機能するか。

答え：様々な思い出や経験が想起される、手がかりとなる。

昔聞いた曲を聴くと当時の経験を思い出す、というのが典型的だろう。

精神的エネルギーを投じるのは、他者であっても構わない。形見という言葉がある。

語源由来辞典によれば、「残された品を見ることでその人を思いだし、形（その人）が見えてくるようなもの」と書かれている。故人が精神的エネルギーを投じたモノは、残された人の記憶を駆動するきっかけにもなる。

問い：こうしたモノの働きは、なぜ重要なのか。

答え：個人の内面的な豊かさと成長のため。社会の秩序維持のため。

物質的な豊かさから、内面的な豊かさを目指す社会へと変化する必要性が指摘されている。

個人の豊かさを考えたときに、モノは物質的な豊かさを提供するのみならず、記憶や思い出の受け皿として精神的な豊かさを提供する媒介にもなる。

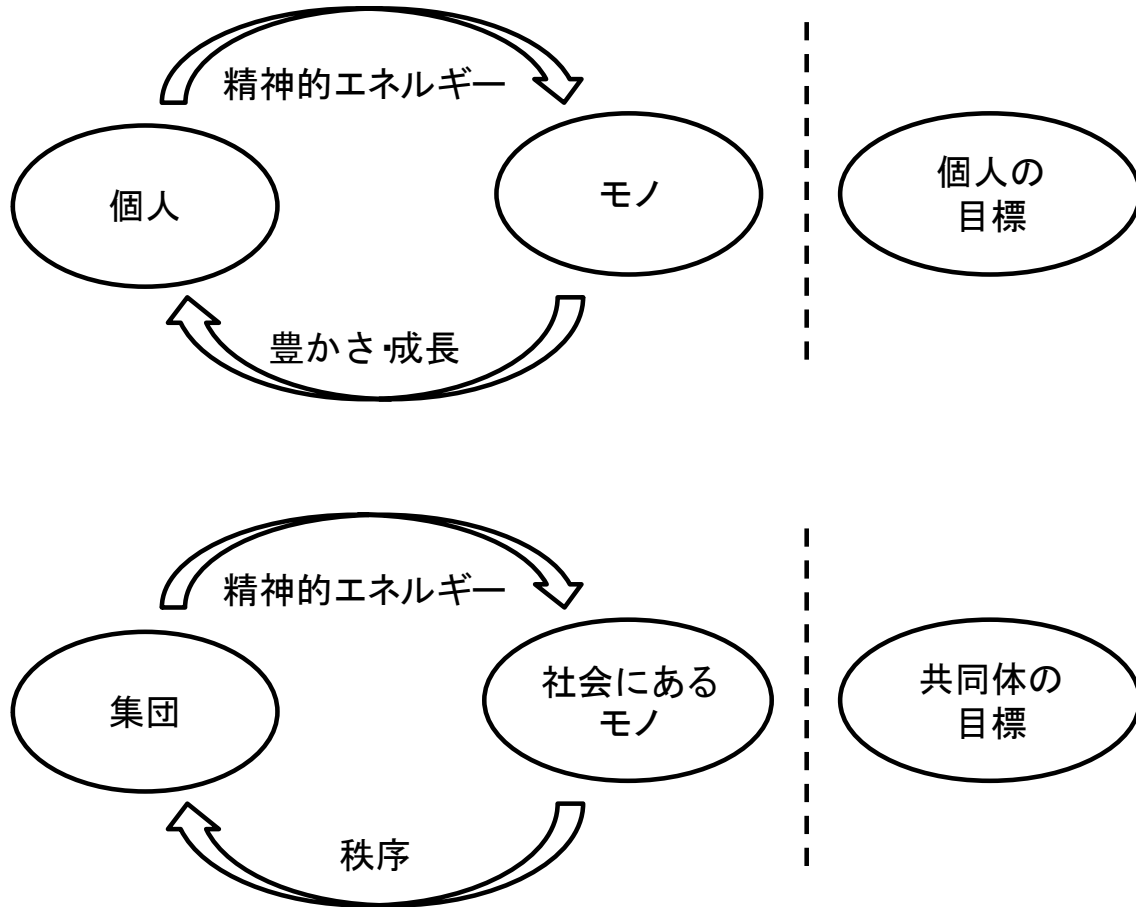
また、モノは個人の意図を人はモノを媒介に教化（cultivate, 耕す）し、成長すると言われている。

人は自由に自分の精神的エネルギーを分配し、投じることができる。しかし、無秩序にそれが行われると、他者の利益を阻害するような方向で精神的エネルギーが投じられることもあり、社会やコミュニティとして調和できなくなる。この社会としての秩序を作り出しているのが、個人を取り囲むモノである。

人は最初に物質社会を創造し、次にそれと相互に影響しあうことによって、自己の秩序を作っている・・・だから我々を取り囲む物と我々が誰なのかということは切り離すことができない。我々が使っているモノは、自分の都合で買ったり捨てたりできるような単なる道具ではなく、秩序を与えてくれる経験のフレームワークを構成しているのである。したがって、我々が作り、使っているものは人類の未来に非常に大きな影響を持つのである。（前掲書。P.16.）

たとえば、銃の所持を支持する団体は、「銃が人を殺すのではなく、人が殺すのだ（Guns don't kill people, people do）」と主張している。これはモノが人に対して何も影響を及ぼさない、中立的な立場であることを想定している。しかし実際はどうであろうか。銃が身近にある社会では、人は変わると思われる。自己の怒りや憎しみを表現する手段の一つになるからだ。このように、人を取り囲んでいるモノが人に対して中立的であることは滅多にないのである。

図 個人とモノの関係，社会とモノの関係



問い：企業にとって何が重要なのか。

答え：

- ・新製品を企画するときに，消費者の思い出や経験まで考えが及んでいるだろうか。  
(広告表現では，こうした思い出や経験を積極的に描写している)
- ・自社のモノ作りが社会的にどのような意味を持っているのか。  
(事故を起こさない車)
- ・モノとの深い結びつきを促すようなマーケティングはあるか。  
(IBIZA. 顧客とカバンとの関係をより強くするアフターサービスや工場見学)
- ・顧客満足とは何か。

満足の程度に違いがありそうだ。確かに，費用対効果に優れている製品は満足するだろう。しかしこの程度の満足は，精神的エネルギーを投じるほど心酔しているとは言えないだろう。